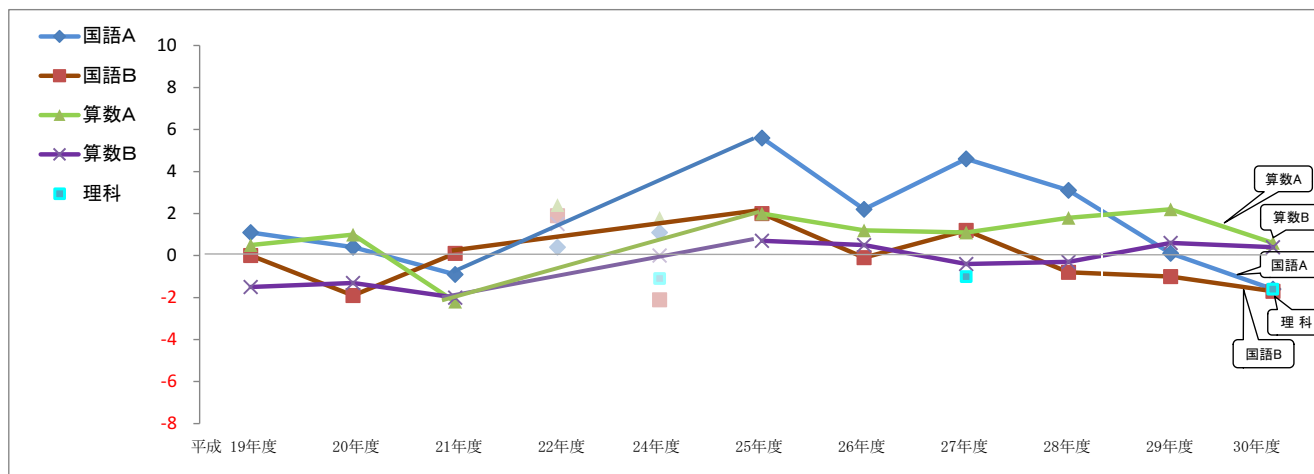


平成19～30年度における高知市平均と全国平均の差の推移

小学校



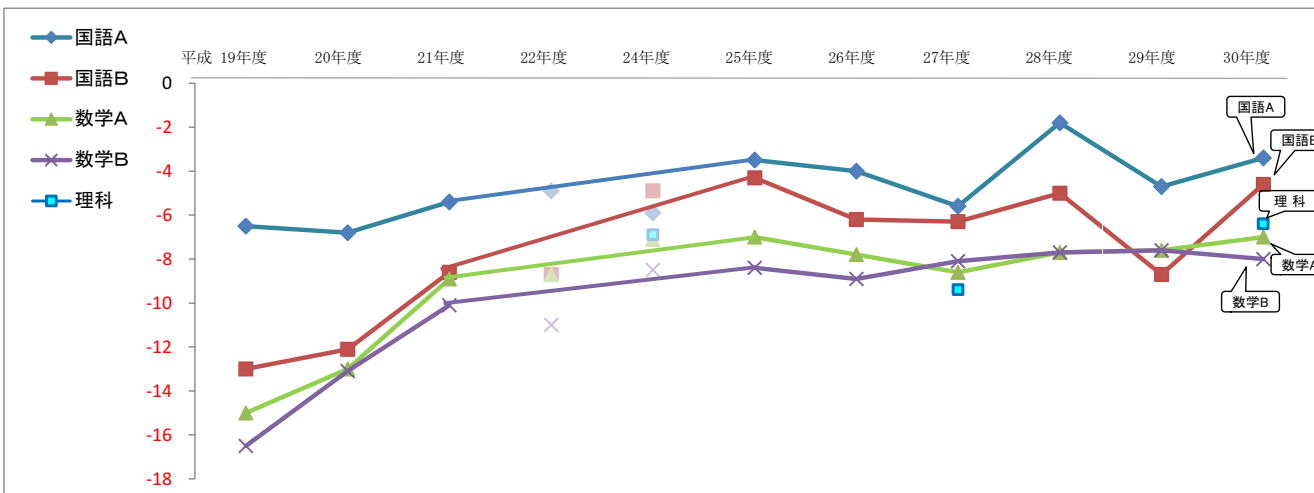
平成30年度の高知市の小学6年生の平均正答率は、算数Aが0.6ポイント、算数Bが0.4ポイント全国平均を上回り、国語Aが1.6ポイント、国語Bが1.7ポイント、理科が1.6ポイント下回りましたが、小学生については全国平均レベルを維持しています。

調査結果から見た成果としましては、算数Aの「数と計算」「図形」「数量関係」、算数Bの「数と計算」「量と測定」「図形」において、全国平均を上回る結果となりました。また、国語B・算数Bとも記述式問題においては、全国平均を上回る結果となっています。

課題としましては、国語A・Bとも「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、全国平均を下回る結果が見られます。

この調査結果を基に検証を進めながら、今後は、学びの質の向上のため、新学習指導要領に示された「資質・能力」の育成に向けて、「カリキュラム・マネジメント」の更なる推進を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善の取組を支援していきたいと考えます。

中学校



平成30年度の高知市の中学3年生の平均正答率を昨年度と比較すると、全国との差が、国語A 1.3ポイント、国語B 4.1ポイントの改善が見られました。数学Aにおいては、0.6ポイント改善が見られましたが、数学Bにおいては、8.0ポイント下回る結果となり、昨年度より全国との差にひらきが見られました。3年ぶりの実施となった理科においては、前回と比較すると3.0ポイント改善しており、全国平均を下回る状況は変わっていませんが、平成19年度調査実施以降、各教科の改善傾向は続いています。

本年度中学校質問紙調査では、「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」の肯定的な回答の割合が全国平均を上回り、学力調査等を活用した授業改善の取組が進んでいることがうかがえます。今後も、学校が目指すべき資質・能力の育成に向けた組織的、計画的な授業改善の取組を支援していきたいと考えます。